

平成27年度米子市歴史館運営委員会議事録（概要）

平成28年3月23日（水）13：30～16：10

米子市役所旧庁舎2階604会議室

平成27年度事業報告について歴史館施設より資料内容説明・報告

（田中委員）3つの館の外国人の来館者の割合を教えてください。

（山陰歴史館）歴史館は、大半が韓国からで、大体月平均で5人程度である。

（福市考古資料館）外国の来館者はほとんどいない。

（上淀白鳳の丘展示館）一昨年、韓国から30人くらいの団体が来た。

（上村委員）3つの館が色々頑張っており、夏休みの出前講座も有効である。今後は近隣施設、妻木晩田遺跡等とも協力した事業等も有効ではないだろうか。あと、学校教育に関してどういったニーズに応えてもらえるだろうか。

（上淀白鳳の丘展示館）むしろ、どのようにしたら、学校が館を利用してもらえるだろうか。通過点として1回くらい来てほしいと思うのだが、昨年1校もなかった。

（上村委員）学校の社会の教員も歴史館自体を最近見ていない者も多く、昨年、歴史館館長に社会科教員向けの講演をしていただき、歴史館を見学させてもらった。教員の認識を増やす機会が必要かもしれない。

（前田委員）春の遠足への働きかけは可能だろうか。

（上村委員）今小学校の遠足は、歩きなもので遠い。今小学校は4～5キロが目的地で、1年生を連れて歩くこともあり、流れ解散できるように考えている。社会科見学でバスを利用することもあるが、年に3回バスを利用というのは無理な状況である。水鳥公園関係で、水鳥公園、崎津のメガソーラー、アジア博物館に行くとバス代補助があり無料になる。歴史館もそういった企画があるとよいと思う。

（文化課）検討課題として考えたい。

（南前委員）生涯学習課等を通じて公民館関係への働きかけをしたらどうだろうか。

（上淀白鳳の丘展示館）公民館長会で毎年説明し、公民館の色々なサークルの来館者もある。今度は来てもらうだけでなく28年度は出向いていくこともやっていきたい。

(山陰歴史館) 公民館には全部行っているのですが、今度は公民館だけでなく病院にも出かけて企画展の展示等をしようかと考えている。

(内田委員) 20 ページのところに「壺瓶山で西条柿でほし柿を作り歴史や魅力を紹介」とあるが、どのようなことに着目して柿と歴史等を紹介していくのか。

(上淀白鳳の丘展示館) 歴史に関心を持ってもらいたいという観点で、飛びつきやすい分野から歴史へ導くやり方を企画した。壺瓶山は開発事業の関係で、柿や茶畑などがあるのだが、柿をきっかけに壺瓶山の歴史を説明し歴史に関心を持ってもらう。来年は茶摘や茶もみ等地域とからめていけたらなと感じている。

(長尾委員) 3 館が事業をしていく中で、連携や同時期に見て回れる取り組みをしてはどうか。歴史館をきっかけに他館にいけるような取り組みはしていないのか。

(文化課) 学芸員が、十分な人員体制ではないため、イベントの際に連携して行っている。夏休みの出前事業やイベント・行事などの応援等人的な協力は行っている。また、埋蔵文化財センターをバックヤードに埋文と歴史館、埋文と上淀等で展示のやり取り等は行っているが、なかなか集客に結びつかない。また、妻木晩田との連携という点でもなかなか成果が結びつかない。

(安江副委員長) 十分な施設状況、十分な人材配置とはいえないが、あらゆる方向に目をむけて事業展開を行っていると思う。お互いの館が協力して事業を行い、啓発や体験等色々機能的に事業を展開してほしいと思う。

平成 28 年度事業計画について資料内容説明・報告

(内田委員) 歴史館事業で、「幕末期のお台場」事業をするにあたって、学習後淀江のお台場を見る取り組みはどうか。また、鉄の事業では、福市や淀江など、鉄という分野でツアーを組んだりなどしてはどうだろうか。福市で、実際に鉄を作ってみるとか楽しい取り組みもできるのではと思う。また、火起こしからその火を使った取り組みを行うと面白いのではないか。

(長谷川委員) 伯耆古代の丘公園の影が薄くなり、折角良い施設なのに活用しにくくなっているかと思う。設備も随分年数が経っているが、なんとか古代の丘資料館に足を運んでもらえる機会があればよいと思う。ハスの時期とか小人数でもいいので、小刻みに一般の市井の人が入ってもらえるようなイベントを継続して提供してほしい。側にある施設に人がいないのが地域に住んでいて残念で、町の良い財産なので活用してほしい。

(上淀白鳳の丘展示館) 今年の試みに、夏休みに展示館と公園で連携しながら埴輪づくり等できるのではと検討している。隣接する施設で相互活用できたらと考えている。

(前田委員) 日にちを見ればイベントがわかる文化事業スケジュールができると良いなと感じる。時間が空いたので何かやっていないだろうかというものがわかれば、地元だけでなく観光客も活用できると思う。米子市エリアを超えた文化事業などの一覧表等、HP等でわかると良いと思う。

(南前委員) 米子市だけでなく西部地域全体でできないだろうか。

(上村委員) 情報交換としては広域に広げるのはよいかと思うが、ここの施設は米子市立の施設なので、どこまで広げるのかは少し疑問に思う。むしろ、米子市立の施設なので、近隣に図書館や美術館があり、図書館に来館する多くの人が、ついでに目にする企画展のポスターによる情報で歴史館に寄ってみようかという取組み等、歴史館の利用に繋がっていくのではと思う。同じように図書館のオープンスペースに歴史館の展示を少しして、興味を持ってもらって歴史館に寄ってもらう。美術館のスペースを使って色々展示するのもよいのかなと思うこともあるが、折角近隣にある施設を使って企画するもよいのではと思う。

(山陰歴史館) ポスターなど、同じ歴史施設なので3館で互いに掲示している。また、美術館や図書館ともポスターの掲示をしている。また、先程のスケジュールについて表にすることは3~4月頃できると思う。美術館・図書館のスケジュールも参考にしながら、文化課もフォローしてもらえるかと思うので、そのあたりでよい方向に迎えたらなと考えている。ただ、広域的なエリアのスケジュールをまとめるのは難しいと思う。

また、講演会のあとバスで廻る案について、来年以降の案の参考としたいと思う。ただ、一つの事業にバス代が1人1000~1500円位かかるなど、経費負担も大きく参加者にどのように課しながら楽しんでもらえるかが頭を悩ませるところである。ただ、そういう点も踏まえて3館で協力しながらやっていけたらなと思っている。

(文化課) パソコンの情報も重要だが、ポスターも必要かと思う。今までも各々の事業がかぶるスケジュールもあったので、この点を踏まえ、各館の行事を1枚にまとめたものを作ることは必要かと思うので、やっていきたいと思う。

(安江副委員長) 全体的なもの如果能したら、ぜひバス会社や旅行会社などに配ってほしい。

(前田委員) 皆生の旅館なども活用してもらえないかなと思う。

(文化課) 前から学校現場に、館に来たらこんなことができるというメニューを提示していきたいと思っている。以前は先生が考えて作っていたが、時間がなくなっているので先日発刊された副読本に載っている偉人を展示すれば色々な学年が来てもらえるのではと思う。そのあたりも含め色々考えていきたいと思う。

(長尾委員) 営業は「むきばんだ」でも積極的に行っている。ここに来たら、こんなことができる、こんなところが見れますといった一目でわかるメニューを作って、来客と会えなくてもメニューを置くだけで見てもらえるものを作ってはどうか。淀江まるごと道草日和は事務局で自分も携わっていて上淀展示館も積極的に参加しているので、こまめに情報をキャッチしてPRに利用してもらえればと思う。

(山藤委員) 様々な観光地で、施設を見ると割引があるといったものがある。当初歴史館だけのつもりが、美術館も安くなるということで特に関心がなくても行きやすいのではと思う。大山の有料な施設等等も含め共通券があるという行ってみようということに繋がると思う。来る人は米子市・県だのどこがしているのかは関係ないので、中身で考えてもらおうと地域全体で活性化になっていくのではと思う。

(山陰歴史館) 鳥取県内の美術館・博物館の加入団体でミュージアムネットワークという制度があり、ここでは割引制度も設けている。ただ、周知が図られていない点もあるため、窓口などで周知を図っていききたいと思う。

(文化課) 割引券は、歴史館と美術館が近隣ということもあり、同時期に企画展を行なっている場合は相互割引券を出して誘客を図っている。また、上淀展示館も周辺域で割引券を出している。地元商店会との連携については、今は行っていないが、イベント的なものを取り入れていけるところがあるかもしれないので今後検討していきたい。

(山藤委員) 歴史館に行って、次美術館に行って100円引きではなく、はじめに歴史館で美術館との共通券を買うといったことのほうが断然違うと思う。実際に買ったほうが行かざる得なくなるので、次のところで安くなるというものよりかは行く割合も多いと思うし、収入も確保できると思う。割引というよりかはセットで売るといったほうがよいと思う。

(文化課) 検討していきたいと思う。

(松崎委員) 先日米子高専の建築学科の卒業発表会で、市内で人々はどのような施設を巡り帰っていくのかという研究発表があった。人の行動パターンなどを踏まえて考えていくとよいのではと思う。

(安江副委員長) その資料をまた見せてあげてほしい。

(松崎委員) はい。このほか美術館に行くと、家族連れが多く目に入る。おひとり様が気楽にいけるようなプランもあってもよいのかなと思う。

(安江副委員長) 資料館などは比較的一人ではないのだろうか。

(上淀白鳳の丘展示館) 色々あり、多いのは、2~3人で来る場合が多い。ただ、一人で旅行されている人などもいる。

(前田委員) 白鳳の丘展示館は何かグッズは販売しているのだろうか。

(上淀白鳳の丘展示館) 今は缶バッジだが、葉書を作ろうかと考えている。沢山買ってくれるという好循環だとよいが。試供品的に色々グッズを作ってみようかと思うが、一番作りたいのは書籍である。

(前田委員) ミュージアムショップで何かを買って帰るといのが楽しみだが、米子には全然ないため、せめてここに来たら、これを買って帰るものがあるといいなと思う。山陰歴史館(缶) 詰みたいな 1000 個限定品を作って、中に米子城のグッズが出てきたといったような楽しいものが開発できないかと思う。

(上淀白鳳の丘展示館) 展示館というより白鳳の里で色々グッズ作成は可能性として考えられる。石馬や上淀や妻木晩田と一緒にできれば色々考えられると思う。

(前田委員) 学術的なものではなくてもよいが、学術的なもので面白いもののほうがよい。

(長尾委員) 高いものでなくてもここでしか買えない物を作るのは大事なと思う。また、お土産により、施設を知ってもらう機会も増えるのでその取組みは有効かなと思う。期間限定品の缶バッジを作ると、来たときにしか買えないのでよいと思う。

(文化課) 資金の問題もあり、事業資金が沢山あるとある程度まわせるのだが、歴史館関係はぎりぎりの予算であるため、当たれば回収できるが、はずれば事業に穴が空きかねないので二の足を踏んでいるのが現状である。

(長尾委員) 連携するのもよいのかもしれない。

(文化課) 検討課題としていきたい。

(山陰歴史館) 歴史館では民俗資料の貸出しを小学校 3 年の先生が希望され、出前授業などの要望にも応えているが、そうすると歴史館に足が遠のくケースが出てくる。学校はバスや時間の問題が原因としてあるならば、出前授業にシフトをおいた事業展開をと考えているのだがどうだろうか。

(上村委員) 学校の事情もあるのでよくわからないが、小学 3 年のカリキュラムにある内容は、市内の学校がほぼ同じ時期に学習することとなるので、希望する日が取れなければ来てもらうようお願いするしかない。という状況だと思う。

(山陰歴史館) 校長会等で学生は企画展等は無料であることと、教員も学校名を名乗っていただければ無料の措置をするので伝えてほしい。

(上村委員) 校長会で話をしても教諭に伝わるかどうか分からないので、小教研の社会科部会のときに話をさせてもらおうかと思う。

(岩佐委員) 歴史館の問い合わせについて、今の人はどういうことに興味を持って問い合わせしてくるのだろうか。

(山陰歴史館) 一番多いのは、自分の家のルーツなどである。

(福市資料館) 最近では、調べることを丸投げにして施設に問い合わせしてくる人も多い。

(岩佐委員) 今は情報が満ちあふれすぎていて、情報をどのように整理して自分のものにするのか、やり方がわからない人も多いのではないだろうか。世間で歴史館の係わり方も変わってきているので、施設の職員もその点を考慮して対応したほうがよいのではないだろうか。ただ、歴史館に電話や手紙を出す人は、相手も相当の情報を持っているのでそういう人とのつながりが大事だと思う。1つの情報が10くらいに広がっていく可能性があると思う。

(安江副委員長) 施設の整備についてかつて話があったが、今はどういう状況にあるか教えてほしい。

(文化課) 歴史館の整備については、平成25年に伯耆の国よなご文化創造計画後期計画ができ、そこに位置づけられているものであるが、米子の歴史が分かる通史を柱に、米子城、城下町の散策機能などの機能を含めた歴史館にしていこうということで方向性を示した。それを具体的にどうして行くかということで、庁内の関連の所属などが集まって内容をどうしていくのか検討していたが、それに加えて集客できる仕組みや機能を付加できないかという話もあり、一方で議会からは、歴史館という機能ではなく集客施設にしてはどうかという声もあった。我々としては、歴史館のある建物で歴史館という機能を持たせやっけていきたいと考えており、山陰歴史館という名称で色々展示等行っているが、米子の歴史に絞った形での通史、米子城、城下町散策において情報がわかる機能を持たせたものに加え、イベントや機能など集客できるものが盛り込めないか、引き続き庁内で意見を出し合う途上で、検討会を実施している状況である。今後歴史館の機能の配置や集客要素はこのようなものという素案ができた段階で委員の皆様にご検討いただこうかと思っている。

その他の質疑・提案・要望

(前田委員) 坂口真佐子氏から寄贈を受けた人形について、今の状態と今後どのようにしていくのかという考えを聞きたい。

(文化課) 坂口家から米子市に寄贈を受けた、人形を中心とした素鳳コレクションであるが、歴史館で収蔵しており、春を中心に展示をしていたが、皆生に素鳳ふるさと館ができ、歴史館にある人形を運んで展示もしていた。しかし、人形を移動させるリスクが大きいため、2階に人形を保管する部屋を作ってもらい、歴史館の人形を少しずつそこへ移動させつつある。ただ歴史館で収蔵している人形で

展示に耐えることのできないものは歴史館に置いて、その人形を今後どうするのかということを経後の検討課題としている。

(前田委員) 人形の価値は大体どれくらいのものでしょうか。中には非常に価値があるものがあるのではと昔から言われていて、もし貴重なものならば、専門家に見てもらって、美術館やそれ相当のところに譲って管理してもらったほうがよいのではないかと。価値があるのかどうかというのが大事で、展示よりも優先させるべきではないかと。

(上村委員) 自分は、価値のためにお金を費やすのはもったいないと思う。歴史館前館長は「たいしたものはない」ということだったので、そう思い信じていた。着物の修復だけでも多額を要すると聞いていたので、どのように皆さんに納得してもらおうのかと思う。

(山陰歴史館) 寄贈を受けた際の素鳳館の学芸員が、貸出を希望される人形に保険をかけているのでそれで評価を得ている。歴史館で展示したり、広島等へ貸出す際のものについても素鳳の保険の評価額を参考に貸出している。東京で人形を修復する有名な方にも見もらったが、良いものとそうでないものもあった。よいものを直すとなると、100～200万円の額ではなく相当の額がかかる。また、直し方も綺麗に直すのか、今の状態を保持して直すのかそこも考えなくてはならない。保管条件も設備の整ったところで保管するのもよいが、季節とともに自然の状態でも保管する方法も良いという専門家の意見もある。どのようにお金をかけることが可能なのか、どのような修復をするのかといった点を検討しなければ、ということである。

(文化課) 1体直すにも何百万円という世界であるため、そのあたりをどうするのか。また、雛人形だけでなく、かんざしや調度品など色々なものがあり、フランス人形も良い物があるといわれているので、トータルで見て坂口真佐子さんコレクションをどう評価していくのか、切実な問題になっている。

(山陰歴史館) 補助金で修復するという事も考えたが、分類わけ調査を行い、専門家に見てもらってから補助金の申請に至る過程で、人手の問題で分類わけもできないという状況下である。

・歴史館のモニタリング第三者評価・指定管理者選定について説明・報告

(南前委員) 自分は文化財指導委員をしており、有形文化財を中心に各地域を回っている中で、多くの有形文化財が損壊・消滅の危機にある状況である。以前あった灘町後藤家は消滅マンションになったりしており、今心配しているのが専門大店ビルである。これは行政で手出しができないので、ここにいる方は各々の立場で文化財に興味を持っていると思うので、民間の力で何とか破壊消滅に瀕したものを救えないかと感じている。色々なところを廻る際、そういうところも見て国登録や指定など啓発的な活動なども学校教育や社会教育の現場で働きかけていただけたらと思う。